

2019年1月8日

DJプレイの操作感と高音質を追求

ダイレクトドライブターンテーブル「SL-1200MK7」を2019年夏に製品化

CES2019※に出展

パナソニック株式会社は、DJ文化を黎明期から支え続けてきた、テクニクスのダイレクトドライブターンテーブルSL-1200シリーズの操作感を踏襲するとともに高音質を追求した、「SL-1200MK7」をCES2019※に出展します。「SL-1200MK7」は、2019年夏をめどに製品化予定です。

SL-1200シリーズは1972年に発売して以来、ダイレクトドライブ方式ならではの高音質と信頼性で、世界中のオーディオ愛好家はもとより、クラブやスタジオ、放送局などにおいても高い評価を得てきました。とりわけ、1979年発売のSL-1200MK2以降は、ピッチコントローラーを「つまみ型」から上下にスライドさせる「フェーダー型」に変更するなど楽器を演奏するような操作性を実現し、当時アメリカを中心に台頭してきたディスコやクラブにおける定番機になりました。2010年に生産終了となったSL-1200MK6までのシリーズ累計の販売台数は350万台を超え、今もなお世界中で愛用されています。

「SL-1200MK7」は、2016年に製品化したSL-1200Gをはじめ、新生テクニクスの開発で培った技術を用いて音質を高める一方で、ボタンレイアウトやプラッターの慣性質量などDJパフォーマンスに影響する仕様はSL-1200MK6を踏襲。過去のモデルを使い慣れた方でも従来と同様の操作感でお使いいただけます。さらに、トルク・ブレーキスピードの調整機能や逆回転再生などパフォーマンスの可能性を広げる新たな機能も搭載します。

テクニクスは、「SL-1200MK7」を通じて新たな音楽文化の創造に挑戦していきます。

【主な特長】

(1) 操作性を追求、進化させ、多様なプレイスタイルを実現

- ・外形寸法やボタンレイアウト、プラッターの慣性質量などSL-1200MK6の仕様を踏襲し、過去モデル同様の操作感を実現
- ・ケーブルの脱着が可能な電源／フォノケーブル端子を採用することで、メンテナンス性を向上
- ・起動トルクやブレーキスピードの調整、レコードの逆回転再生などの新機能を搭載し、多彩なパフォーマンスが可能

(2) アナログレコードの音質を引き出す高精度な回転と徹底した振動の抑制

- ・新開発のコアレス・ダイレクトドライブ・モーターの採用で回転中の微小振動を抑制するとともに、デジタル制御により高精度な回転を実現
- ・ABS樹脂にガラス繊維を配した特殊素材とアルミダイカストの2層構造による高剛性筐体、およびスプリングとラバーを組み合わせたインシュレーター採用で、大音量環境下における外部からの振動を効率的に遮断

※米ネバダ州 ラスベガスで開催される国際コンシューマー・エレクトロニクス展(会期:2019年1月8日(火)~11日(金))

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。

商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。